

区民と区長のダイアログカフェ

令和8年3月18日

区民と区長のダイアログカフェ

令和8年3月18日

【広報戦略課課長補佐】

皆さんダイアログカフェによろこばおいでくださいますて、ありがとうございます。

お時間になりましたので、始めさせていただきます。

私は、文京区の広報戦略課で課長補佐をしております池田と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

開会に先立ちまして、成澤区長よりご挨拶を申し上げますので、よろしくお願ひいたします。

【区長】

区長の成澤です。

このダイアログカフェは、いろいろな自治体で、首長と市民の皆さんたちとの対話の形があるんですけども、ややもすると何というんですかね、直訴型というか、何か物申すというやうなぎくしゃくした対話になっているところが多いように聞いている、私も区長になって最初の頃はそういう対話の形式でやっていたんですけども、お互いストレスが残って、生産性に欠ける営みになっていて、それよりは皆さんとテーマを決めてお互いを否定するのではなくてフラットな立場でいろいろ話し合って、到達点が1歩でも前に進むことができれば、それを実現していくというやり方のほうが、私と区民の皆さんとの対話の形としてはより好ましいだろうということで、このやり方で今のところ進めているところです。

今日は忌憚のないご意見を頂戴できればと思いますので、様々なアイデアを楽しみにしております。どうぞよろしくお願ひします。

【広報戦略課課長補佐】

ありがとうございました。

それでは、ダイアログカフェにつきまして、いくつか説明をさせていただきます。

このダイアログカフェですが、皆様と区長がリラックスした雰囲気の中で、区政の課題や未来像などについて、自由な意見交換を通じて話し合う場となっております。区にとっても新たな視点からの事業展開の方向性を探ること、そして参加者相互の理解や連帯感を醸成することを目的として実施しております。

今回のテーマなんですけれど、ちょっとなかなか難しいというお話をいくつかいただいています。テーマは、「交流自治体との連携をきっかけとした地域活性化について考えよう」です。

皆様の視点から、様々なアイデアを共有いただければと考えております。

当事業の進行についてですが、ファシリテーターの下進めてまいります。ファシリテーターのチヒロさんをご紹介します。

チヒロさんは、トークイベントでもあります「文京区100人カイギ」などの多数イベントを文京区内で主催しております。この会場のご近所でも「お寺マルシェ」を開催するなど、ご活躍中です。また、イベントを通じてたくさんの方々とお持ちの方でいらっしやいます。また、チヒロさんご自身も、このダイアログカフェに過去参加されたご経験ございます。

次にスタッフなんですけれど、本日、私含めて区職員2名でサポートさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

次に、本日の記録についてですけれど、文京区のホームページに会議録を掲載させていただきます。そのため、対話内容を録音させていただきます。発言の際には、皆さん今シールに書いて貼っていただいたニックネームを言っていただいてからご発言をお願いいたします。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

あと、ニックネームを含めまして、発信者のお名前など、個人情報には会議録からは除いて作成いたしますので、対話では忌憚のないご発言をぜひお願いいたします。

あと、記録用といたしまして対話の様子を撮影させていただきます。ただ、これもあくまでも記録用です。外部提供を行うものではございませんが、撮られたくないという方がいらっしやいましたらお申出いただければ配慮させていただきます。

最後ですが、本日の会場、「Juhla Tokyo (ユフラトーキョー)」さんですが、こちらはチヒロさんからのご紹介の下、この事業にご理解、ご協力いただきまして開催する運びとなりました。どうもありがとうございます。

では、これから対話のほうを始めさせていただきますが、これからの進行はファシリテーターのチヒロさんにお任せしますので、よろしくお願いいたします。

【ファシリテーター】

ファシリテーターのチヒロです。今日はチヒロちゃんでもチヒロさんでも、お好きなほうで呼んでください。

それでは早速ですが、今日のゴールは自分たちで区と一緒に何ができるかなということを含んで発想をどんどんいただいて、アイデアを出してもらおうということを目指しております。まず最初に今日呼ばれたいお名前と提出いただいたアイデアシートの内容を、1分程度で発表いただければと思います。お時間の関係で、全てを一つ一つ掘り下げるということは難し

いので、できるだけ多くの方に共通するキーワードを掘り下げていく形で進めさせていただきたいと思います。中には掘り下げることができないテーマが出てくるとはと思いますが、20時30分終了を目指して開催をしたいと思います。

何かご不明な点はございますでしょうか。大丈夫ですか。では、早速始めていきたいと思えます。一番最初のアイデアは、「国際交流のさらなる活発化」というタイトルでご提出いただいている方から、今日呼ばれたいお名前とアイデアのほうを読み上げていただければと思います。よろしくお願ひします。

【参加者A】

簡単に自己紹介、アイデアシートにも記載したんですけれども、文京区に参りましてまだ15年でございます。夫がアメリカ人で、ただ2年前に亡くなりましたが、障害がございまして。福祉課の方には本当によくしていただいて、感謝申し上げます。

その関係で、私は英語ができますものですから、オリンピックの際もボランティアをさせてもらったんですが、そういった視点から今日はお話ししたいなと思っていて。こどもがおりませんので、ちょっとこどもの問題については分からなくてごめんなさいって先にお断りしておきます。

先月「パリ5区」の講演会に私外れてしまって、とってもショックだったんですね。平日だったから大丈夫かなと思つて有休も取ったんですけれども、外れてしまって、ということとはとても人気が高かったものかなと。興味がある方、平日となるとやっぱり対象者が高齢の方に絞られるのかな、お仕事されていない方に絞られるのかな。そういう方、文京区は多いと思うんですけれども、それで外国に興味のある方って少ないかと私は勝手に思っていたんですが、意外と多い。

話がずれるけど先週ですか、中高年の地域活性化、何かセミナーがあったんですね。そこでもやっぱり、参加者の方も多くて、まだまだボランティア活動をしたいという意欲のある方が意外と多くて、そういう方をもっと呼び覚ましたらすごい活動ができると。国際機関も区内には多いですし、大学ももちろん多いですし、と思つてこのアイデアを書きました。

以上になります。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。

英語ができて、国際交流もこの区では活発だということで地域活性化につなげてできる、すごく身をもって体現されている方だなというふうに感じました。Aさん、ありがとうございます。

ます。

それでは続きまして、「はなまるみんなの住む町」、こちらのアイデアをお願いいたします。

【参加者B】

小さい頃Bと呼ばれていましたので、ちょっと思い出してBとしてみました。

私は今、民生委員をしております。それで、文京区が民生委員のメンバーがあまり活動しなくても、皆さんそれぞれに健康で幸せな生活をされていると私はずっと思っています。このたび、保育園の第三者委員会、そういう悩みとかお母様と一緒に考えるというそういう立場に就くようになりました。そして、全保育園ではないんですが近所の保育園に伺ったところ、保育士さんたちがとてもいいプランを考えて、園児さんたちがそのプランがとても体験型であるということが分かり、近隣の交番、郵便局、消防署、コンビニ等に行っているいろいろお話をして触れ合う、そうすることにより、またそういう方々が園児さんたちを見守るという、そういういい流れができているんだなというのが分かりました。お母様たちともとても先生方の連結がよくて、今、一つになっているということがありますね。アイデアシートにも書きましたが、町会というのが文京区はまだ存在していて、どこかの区ではなくなっているという区もあるようですが、こういう小さな子どもたちが交流をしているので、それをどうにか町会の高齢の方々にもつなげて、何かお互いにいい活性化ができる地域が生まれることをこれから望んでいくというのはどうかと思います。

保育園を出るときに、園長先生に町会との関わり合い方、高齢者の方々がいるので、そういうイベントがあったらいいですねと言ったら、間を空けずに「そうですね」とすぐお返事が戻ってきたので、少しずつですけれども、何かつながりがあるいいイベントを作りながら、地域でまた高齢の方たちも子どもたちを見守りつつ元気をもって活性化していけることができたかなと思って、このように書かせていただきました。

【ファシリテーター】

Bさん、ありがとうございます。町のみんなで連携しながら、健康的な体験型の、大人とも交わる、そういったアイデア、どうもありがとうございます。

私、今ぱっと入ってきたワードを書いているんですけど、皆さんもぜひこちらにあります付箋のほうに、皆様方のお話の中から気になったこととか、ぜひ、どしどし書いてください。

それでは続きまして、「文京区ガチャ」というアイデアシートの方。

【参加者C】

Cと申します。私は2児の母で、今、4歳と1歳の子どもを育てておりますけれど、4歳の

子を妊娠しているときに教育目的で文京区に引っ越してきました。

私が書いたのは、ガチャガチャがすごく流行っていて、最近はずぐ売り切れになると思うんですけど、大人がガチャガチャにはまってしまっていて、みんなすごいんですよ。

【ファシリテーター】

すぐ売り切れちゃうんですか。

【参加者C】

いろんな場所でガチャガチャがすごいはやっていて。何かちょっと面白いガチャガチャを作ると、SNSに取り上げてもらったりする可能性があるなと思って、どこに設置するかは分からないんですけど、シビックセンターに文京区ガチャみたいのも置いて、そのガチャガチャの中に、分かんないですけど自治体の情報とか、何かステッカーとか地域のお店の紹介カードとかクーポンとか入っているみたいなのとかあったら面白いなと思って、書いてみました。

あと、アイデアシートの2番目、3番目、4番目は、連携自治体のリストを見てちょっと思いついたものでございます。長くなってしまっているのですが、アイデアシートの一番上の楽しそうなガチャについて紹介してみました。

【ファシリテーター】

どうもありがとうございます。

続きまして、「祭りの交換留学」、こちらのアイデアをDさんお願いします。

【参加者D】

Dといいます、よろしくお願いします。

今年の1月に文京区に越してきました。それまではずっと八王子に住んでおりまして、職場が近いということで、こちらに越してきました。今回この会に参加しようと思ったきっかけとしまして、今一人で暮らしているんですけども、特にここ一、二年ほどで地域であったり自治体のコミュニティに参加をすることで、それまで10代とか20代とは違った人との触れ合いであったり、関わり方であったり、自分の余暇の過ごし方ができるのではないかなと。そういう生活に憧れを持って、自治体のSNSだとかホームページだとか、町の掲示板を見て歩くのも趣味みたいな感じで。文京区さんは、すごく本当に温故知新といいますか、歴史もありつつも、今の人にもちゃんと届けるという意欲を持っていろいろイベントをつくられているなというのを感じていまして。なので、今回のテーマにすごく知見があるとかというわけではないんですけども、ちょっと新参者として新しい地域に、雰囲気に触れるきっかけになればということで参加させていただきました。

なので、私のアイデアはアイデア勝負というところではあるんですけども、交流ということで何かを交換するということだと思うので、割と広報の観点からキャッチーな軸を一つ設けるかどうかというところで、祭りの交換留学というふうに書かせていただきました。

祭りというのは、土地の特色を濃く映し出して、かつ年代、さらに時代を超えて人をつなぐ役割を果たすものですね。この祭りを自治体同士の交流の軸として位置づけてはどうかというところで、本来の地域性が非常に高く、各土地で密度高く営むためのものですけども、だからこそ体験を交換することに価値があるのではないかなと思いますね。観光としてゆかりのない地域の祭りを訪れる人というのは国内外多いと思うんですけども、それだと表面的な鑑賞を超えなくて、祭り本来の享受だとか、地域住民の方と訪問者間の体験の差というのが大きいんじゃないかなというふうに思いました、こういうふうに書かせていただきました。これによって、より広く正しい文化継承につながるかなというところと、海外姉妹都市との交流においても、広く正しい文化継承というのは大きな意味があるのではないかなというようにところで書かせていただきました。

以上です。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。

お祭りって、何か伝統がありながらみんなの意識がぎゅっと集まる感じが、魂が燃えるような。

【参加者D】

八王子にいたときに、大きな八王子祭りというのがあって。

【参加者C】

何のお祭りなんですか。

【参加者D】

おみこしだとかっていうのがものすごく集まって、八王子はヤンキー文化が根強い地域ではあるんですね。去年私の友人が、八王子芸術祭という割とファッションナブルな祭りを開催したんですけども、なかなか地域の人にはそこに目が向かずに、結局昔からあるお祭りが大好きで、古いもの、あまり古いという意識はないんでしょうけれど、血が騒ぐみたいな。芸術祭で盛り上げようというよりかは、昔からあるものを広めてくということのほうが、これこそ祭りの醍醐味だよなというのをそのとき思いました。

【区長】

これって、今ネットで見たら交流自治体の人たちとかも参加しているんですかね。

【参加者D】

交流自治体はどうなんだろう。

【区長】

こんな山車が出たり。

【参加者D】

そうです、そうです。

【区長】

踊っている人たちも。

【参加者D】

そうです。かなり大きなお祭りだとは思いますが。特に広報はされていないと思うんですけど、すごい大きなお祭りです。

【参加者C】

芸能人の方とかが盛り上げていますよね。

【ファシリテーター】

それこそ、文京区なら人材はいっぱい。

【参加者C】

文京区の盛り上がっているお祭りって何なんですか。

【参加者A】

花の五大祭り。

【区長】

花の五大祭りと、湯島天神が5月なだけで、あとは神社の催事はみんな9月なんですね。それぞれが盛り上がっているんです。文京区全体のじゃなくて、神社行事だから、そこは政教分離で区役所は手が出ないという感じですけども。

【参加者C】

私は杉並区出身で、阿波踊りがすごく有名です。

【区長】

あれは何で杉並でやるようになったんですかね。もともと杉並は関係ないですもんね。

【参加者C】

高円寺の商店街がとても長くて。

【区長】

商店会のイベントか。

【参加者C】

阿佐ヶ谷の七夕祭りというのに対抗して、商店街を盛り上げられるということで、そこから始まった、小さい道でできるからって。

【ファシリテーター】

今やね、大塚でもやってたり。

【参加者C】

大塚もやってるんですね。

【ファシリテーター】

やっています。

【参加者A】

大塚に対抗して何か。

【ファシリテーター】

それいいですね、面白い。ちょっと書いてください。

【区長】

昔は、文京ふるさと祭りって行って、後樂園スタジアムの辺りからやっていて、ドームができてからも5、6年…記憶にある？

【広報戦略課課長補佐】

入場料を取るんですよ。

【参加者C】

そうでしたよね、ドームの中でやっているもののことですよ。

【区長】

いやいや、違う違う。それは最近のもの。

【広報戦略課課長補佐】

それは最近のでしたか。

【参加者C】

違うものがあつたんですね、そんな何十年も前の話。

【区長】

ドームの中でやっているのは、今おっしゃっているのは入場料払うやつでしょう。それは全

国から物産が来て。あれはドームでやっているふるさと祭りというもので、ではなくて、文京ふるさと祭りといって、それこそ白山下からそのときの区長さんが、徳川家康の衣装を、当時はミス文京があつてなんかやって、行列してドームに行って、それこそドームを二日間借り切って、夜は阿波踊りをやったりしてたんです。

ただ結局、どこがお金を出すんだという話になって、結局はドームにおんぶにだっこだったと。何千万単位の負担を。で、それはなくなったんですよ。

【ファシリテーター】

でも、趣旨とかやってることは面白いですね。徳川の。

【区長】

今は、ミス文京なんていったら。

【参加者C】

炎上ですね。でも、なんか私文京区の文豪がいっぱいいるからそのコスプレをして、歩くとかは、徳川家康すごい面白かったの、何か文京区の文豪、夏目漱石とかの何か。

【区長】

おととしに、全国藩校サミットというのが20周年で、藩校って全国にあった江戸時代の藩の学校ですよ。こどもたちに学ばせる学校で、その総本山に当たるのが湯島聖堂だということで、湯島聖堂から第1回で、20年目でもう一回文京区に戻りたいということでお引き受けして、湯島聖堂とシビックホールでセレモニーをやって、記念行事だということで家康のお母さんが眠っている伝通院から、今の徳川の宗家、家広さんという、僕の1個上だから61歳と、あとは水戸の徳川さんと、家康のお母さんの里である水野家の現在の当主が人力車に乗って、こどもたちが竹千代とか千姫とかになって、大名行列のミニチュア版みたいなので、伝通院から……。

【参加者C】

全然知らなかった。

【区長】

こどもたちも200人くらい参加した。

【参加者A】

区長もコスプレなさってませんでしたっけ。

【区長】

僕は陣羽織だった。背広の上から。

【参加者C】

そうなんだ。

【区長】

伝通院から礪川公園まで、僅か500メートルもないぐらいだけど、歩くだけですごい人だった。

【ファシリテーター】

こどもたちが喜びますよね。

【区長】

有料参加でも来るんだろうと思うんですけどね、そういう方だと。

【参加者C】

今度、お稚児さんになってみたいと思って、8,000円払いましたよ、私は。

【ファシリテーター】

どこのお稚児さん。

【参加者C】

護国寺の。それでも、払ってもいいなと思っちゃうぐらい。

【区長】

その手の、こどもにそういう格好をさせて、練り歩くみたいなのは、相当参加者が来ますよね。

【参加者C】

そう思いますね。

【ファシリテーター】

一生の記念ですね。

【参加者C】

なんか、スタジオアリスとか写真館に行くより、こういう体験をさせてあげたほうがいいかなど。

【ファシリテーター】

お金を出しただけじゃ買えない体験ですね。

【区長】

今、これは区が関与していないんですけど、来年、再来年かな、再来年が家康のお母さんの於大の方というのが、生まれて500年なんですって。そこに合わせて何かをやろうという実行委員会が伝通院を中心に立ち上がって、そこでこどものコスプレというのは案として出ているって言ってました。

【参加者C】

伝通院、頑張ってますよね、何かとお祭りが多いです。

【区長】

貸してるからね。ノーガードで、どうぞ皆さん使ってくださいというのでやっているの。

【ファシリテーター】

私たちも100人カイギで、お借りしました。

【区長】

織月会館。

【ファシリテーター】

そうです、織月会館。ありがたいです。

【区長】

企画を面白いと思うと、無料で貸してくれるからね、伝通院は。

【ファシリテーター】

さっき、Cさんのアイデアシートのお話もあと2つあったのに端折られていたので、もう一回聞いてもいいですか。

【参加者C】

もう一つは「文京博士」で、私は文京区ママを目指していて。知育ママというか、こどもをビシバシ教育させたいママを目指して。

【参加者B】

目指しているんですか。

【参加者C】

目指しているんですけど、ちょっと難しいんですけど。皆さん熱心なので、全然名乗れないんですけど。

子育てLINEというのがあって、3,600人ぐらい参加していて、誰かが発言すると本当に返信がめちゃくちゃ来るアクティブなLINEグループがあります。イベント情報とかそこでみんな結構シェアしていたりして、今日行ける場所ないですかみたいな。行く場所が近いと、近くでいいのをやっているからみんなそれが知りたくて、イベントとかに飢えているんですよ。だから、みんな自転車でちょっと遠征して、ちょっと遠い公園の防災フェスに行ったりとか、この間は目白台運動公園とかでやっていたり。

【ファシリテーター】

かなりの距離ですよ。

【参加者C】

どこに住んでいるかによりますけどね、そうですね。そういうのにみんないろいろ行ったりするんですけども、何かこういう文京区の中、スポットでもたくさん、いっぱい自治体があるじゃないですか、その自治体を文京区という切り口から学べるかなとか思って、この交流自治体のリストあったじゃないですか、地域の。あれを楽しい冊子にして、その現地に、肥後細川庭園とかに行って子どもたちがスタンプを集められるみたいなノートとかを、ノートとか勉強も楽しくできて無料で学べるようなパンフレットを作ったらいいかなというふうに思ったんです。そもそもあとは、何か歴史を身近に感じると歴史の勉強も楽しくなるかなというふうに思って、老舗の文京区会社とかあるじゃないですか、関口パンとか。関口パンが昔はこういうふうにできましたとか、そういう文京区企業の情報とかも載せて企業から協賛で印刷代とか賄えないかなとか思ったり、あとは歴史とか文京区の歴史に詳しくな中央大学とか分かんないですけど東京大学とかお茶の水大学とかの人とかにも何か関わってもらって、みんなでそういう勉強ができればなど、分かんないですけど東大生公認とかそういうのがあったらみんな読みたいかなとか。

あと、案の3つ目は、教育の森でマラソン大会とか実際にあると思うんですけど、日本マラソンの父という存在を私は知らなかったんですけど、その格言とかアドバイスとかを公園に設置したらいいんじゃないかなと思いましたけども、これは難しいかもしれないですね。

あとは、私は子どもがいるので、子ども掛ける何かできないかなという視点で考えることが多かったんですけど、私も結構文京区報を読むのが好きで、今回もそれで応募したんですけども、その子どもバージョンみたいのがあってもいいんじゃないかなと思って。

【ファシリテーター】

子ども版区報、面白いですね。

【参加者C】

読売新聞とかも、読売KODOMO新聞とかがあって、あれは月1回とか2回とかの発行だったと思うんですけど、交流自治体とかに小学生に行ってもらってそれを記事にしてもらったりしたら、子どもたちも読むし、そこに書くというモチベーションで作文がうまくなるかもしれないかと思いました。文京区ママを目指している者として。

【ファシリテーター】

すごいアイデア。

【参加者D】

文京区ママというのは、ママさん方の間では共通ワードになっているんですか。

【参加者C】

共通ワードですね。港区ママみたいな感じで。VERYママとかです。VERYという雑誌があるんですけど、女性誌で。

【区長】

VERYは光文社。本社も文京区。

【参加者C】

VERYママというのもあります。そういうふうに〇〇ママみたいなのをカテゴライズして、自分がどこを目指しているのかみたいなのを意識されているんだと思います。

【ファシリテーター】

びっくりするような内容をありがとうございます。

では最後、Eさんのアイデアをお願いします。

【参加者E】

生まれも育ちも文京区千駄木です。僕は会社をやめてから発達障害支援のボランティア活動のほうでずっとやらせてもらって、昨年度、国際学会というのにポスター発表を出して、それがXか何かに投稿したらバズったというか炎上したんですけど。

それは発達障害というとASDとかADHDっていわゆるあって、それぞれいろいろな特性があると。それが結構対極的な性格をしているんですけど、それが人間の脳の中にどうやら同居していて、何かいろいろそれによって個性ができていうか、それを脳科学的に発表したのが去年のアイデアだったんですけど、それをもうちょっと物理とかで置き換えてみると。量子力学だと粒子とか波動とか、粒子と波みたいながあると思うんですけど、要は発達障害でいえば粒子的な人間が、どっちでもいいんだけどASD、ADHDは波動的な人間って分類したんですけど、そんな感じで、それは人間と置き換えてみたという話で。結構宇宙とか、僕は物理が一応理系出身なので好きで、今日はテーマが難しくて、何を答えたらいいかわかんなかったんですけど、理系的なアプローチで書いてみました。日本なんかは理論物理が盛んというか、東京大学とか大学都市じゃないですか。それで、素粒子とか特に強いんですけど、一方で技術面とかは遅れているので。ここはチャットGPTに聞いてウォータールーというカナダの都市はどうかと案をもらって、そういう最先端の都市があると。そことコラボレーションすると何かいいのかなという。

今、時代的にはAIがすごい発達して、誰でも論文を書けたりとかそういう、一般市民のレベルがすごい底上げされているなどというのは思ってまして、そういう学会とかで一方的に教えるのもいいんですけど、双方向のディスカッションの場とか、地域的に持ったりして、住民も巻き込む形の例えばイベントとか、コミュニティをつくったら面白いんじゃないかというアイデアですね。

【ファシリテーター】

すごく壮大な感じですね。ありがとうございました。

ではこれで、参加者さん、発表が終わりました。

最後に、ピロリンからも。

【区長】

僕、廣修なんですけれど、ダイアログカフェの第2回目のときにこういう貼る名札じゃなくて、折って、三角の形のを置いてやっていた時代があって、ピロリンって書いてあるから誰かが僕にあだ名をつけてくれたんだろうと思ってそこに座ったら、トイレから帰ってきた人がピロリンだったという。それから気に入って、ずっとピロリンを名乗っています。

【ファシリテーター】

なので、今日はピロリンって呼んでいただいて。

【区長】

ここで僕が一言話したほうが良い。

【ファシリテーター】

ご紹介だけにします。幾らでもアイデアが出てきちゃいそうなので、封印させていただこうと思います。

それでは、いろいろキーワードを書き出してありますので、この中で皆さんの意見を深掘りしたいんですけど、ちょっと時間が足りないのが明白なので、一つだけこの中から選んでいただいて、それをみんなで掘り下げていきたいと思っています。

今回のお題は、交流自治体との連携をきっかけとした地域活性化について考えようです。こちらのタイトルにピタッとハマるようなキーワードがありましたらそれを掘り下げたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

【参加者B】

やっぱりお祭りとかパレードとか。

【ファシリテーター】

楽しそうですね、どうですか。どんどんおっしゃってください。

【参加者B】

ふるさと文京祭り、やっぱり祭りが活気が出るし。

今、おみこしの担ぎ手がいなくて、地方だと担ぎ屋さんをアルバイトで来てもらって、おみこしを担いでいます。

【ファシリテーター】

浅草とかもね、そういうの多いですね。

【参加者B】

やっぱりどんな人が来てても、盛り上がるとみんな盛り上がるので。元気も出るし、こどもからおじいちゃんおばあちゃんまで、共通で楽しめるし。

【ファシリテーター】

共通ですね、確かに。

【参加者C】

健康とかにもつながりますよね、国際交流にもつながるし、お祭りっていう枠組みだと。

【ファシリテーター】

外国の方も結構いらっやっていますよね。そこでおみこしを担げるよとなったら、大喜びで。

【参加者B】

担ぐよね。背が高い方も多いし。

【参加者D】

私のアイデアの押しポイントとしては、留学というか、長期間その土地に、点だけじゃなくてその日来るではなくて、準備の段階から地元の人と一緒にやっていくということが押しポイントです。

【参加者C】

例えば、岩手県盛岡市からのお祭りを持ってくるみたいなことですね。

【参加者D】

持ってくるというのは、私は新しいアイデアだと思うんですけども、なるほどって思いました。

【参加者C】

交換だから、各県のここに書いてある新宿区とか分からないけれど、ここから持ってきて、

文京区の祭りもチェンジするのかなと思ってました。

【参加者D】

なるほど。

【ファシリテーター】

そうすると、深堀するのは祭りっていうのはいかがですか。

【参加者C】

いいですね、お祭り。

【ファシリテーター】

では、今日のテーマは祭りですね。こちらも一つのアイデアとして祭りを軸に皆さんで今発言されていたようなことをまた付箋に書いていただいて、持ち寄って発表いただきたいなと思います。

どうぞ、祭りを軸にどんどん書いちゃってください。

【参加者C】

祭りを軸に、何か。

【ファシリテーター】

アイデアをさらに深めてください。

【参加者E】

どんな祭りかってことですか。

【ファシリテーター】

そうそう。さっきのさんさ踊りをもってくるだとかね、そういうアイデアですよ。

【参加者E】

盆踊りとか。

【ファシリテーター】

盆踊りいいですよ。

私は炭坑節もあんまりうまくないので、ちょっとレクチャーするところから。お子様も一緒に、何か事前にできたら面白いのかななんて今、ちょっと思いましたけれども。

【参加者D】

私がちょっとイメージしていたのは…。

【ファシリテーター】

ぜひ付箋に書いてください。

【参加者D】

書きます。

【ファシリテーター】

お時間が詰まってきているので、あと5分くらいで書いていただいた中で選んでいただいて、それについて説明していただければと思います。

交流自治体との連携をきっかけとした地域活性化について考えよう、小テーマが祭りです。

【参加者A】

私、区長の姿が忘れられなくて。

【ファシリテーター】

私も見たかった。

【参加者A】

本物の徳川さんとかすてきでしたよね、甲冑とか。

【区長】

あのとき、人力車を浅草から持って来たんですね。

人力車の車夫の人たちが、偽物の徳川は何回も載せているけど、本物を乗せるのは初めてだって言ったら大笑い。

【参加者C】

絶対落とすなよってね。

【区長】

切られるぞって。

【ファシリテーター】

坂の下りでね、落としたら大変ですもんね。シートベルトとかあるのかな。

【参加者B】

シートベルト、面白い。坂が急だからね、文京区。それが魅力でもありますけれどね。

【区長】

でも、あのときは興に乗ってくれて、徳川さんが日光東照宮から衣冠束帯を取り寄せてくれたんですよ。

【ファシリテーター】

それは何ですか。

【区長】

いわゆる、宮中を、こんなぴよーんていう帽子とか。

水戸さんと水野さんは、紋付を買ったんですけれど。僕は衣冠束帯で乗りますって言って。

【ファシリテーター】

見たいですね。

【参加者A】

写真、見返してみます。

【区長】

クリーニング代は誰が払うんだって最後大変だったらしいです。

【ファシリテーター】

それ、いつ頃なんですか。

【区長】

一昨年じゃないかな。一昨年の10月。

【ファシリテーター】

見たかった。皆さん、あと1分ほどです。小テーマ「祭り」に関して、ちょっと深めるというか、聞きたいと思います。付箋に書いていただいた中から1枚選んでいただいて、発表いただきたいと思います。

では、そろそろ大丈夫ですか。Bさんからぐるっと回ろうと思います。

【参加者B】

そういうお祭りに参加したい気持ちがあっても、やっぱりどうしても埋もれてしまう年代もあると思うので、町会に必ず特徴とか、何かがあるはずなんだと思うんです。

【ファシリテーター】

町会ごとに。

【参加者B】

町会。だから、例えば私は今、〇〇町会にいます。〇〇町会は、こういう特徴があるというのをみんなで見つけて、それをお祭りのテーマにすれば、文京パパ、文京ママ、元パパ、元ママの人たちも参加してもらって、こういうことが昔はあったのよとか、こういうこともあったわというのを思い出しながら町会ごとのお祭りを再現したらどうかなと思いました。

【ファシリテーター】

面白いですね、ありがとうございます。

【参加者C】

復刻ですね。

【参加者B】

元ママ、元パパも一緒に。

【参加者C】

集まれ、みんな集まれですね。

本当に掲示板メディアって、掲示板をよく見ているって言うていたけれど、本当に町会もいろんな活動をされていて、すごい盛んですもんね。

【ファシリテーター】

やっぱり皆さん見てくださっているんですね、掲示板。

【参加者C】

そうですね、見えます。

【参加者A】

見えます。スキーツアーとかいいなど。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。

次が、Dさん、一つ選んでお願いします。

【参加者D】

私、ちょっとうまく付箋に表せなかったもので、話せたらと思うんですけど。

私のイメージ的には、文京区の中でというよりも姉妹都市との交流というところで、さっきもぼろっと言ったんですけども、一日の奉納とか祭りを見に行くとか、同じ参加するじゃなくて準備段階からということ、せめて一週間とか、そういった意味での留学というのをしたいなと思いました。そのためには、地域ごとの祭りにどんな特徴があるのかというのをちゃんと知ってないといけないと、とんがっているところをしっかりと認知してどこをこの地域は推していくのかというのを自分たちで分かっていないといけないので、その過程として今おっしゃっていただいたように、今までの過去の復刻であったりとかそういうふうにつながるといいなと思いました。

【ファシリテーター】

ただちょっと仲よく交流じゃなく、ちゃんと深め合い、勉強し合って、町会も絡めながらみたい。すごいもりもりな、広がりそうですね。ありがとうございます。

では、Aさん、お願いします。

【参加者A】

私は、また語学に戻って、外国の人を案内すると必ずアニメっておっしゃるんですよね。僕はアニメの何々が好きですっておっしゃるのでコスプレ的なことをしつつ、区長のコスプレが見たいので、願わくば外国人の好きなものを集め、障害のある方も参加しやすい、ふらっと来やすいお祭りを希望しております。

【ファシリテーター】

いいですね、みんなで交流できて。何か夢のような文京区、すごいみんなが喜ぶ感じがイメージできました。ありがとうございます。

Eさん、お願いします。

【参加者E】

かぶっちゃうかもしれないですけど、現実的なところでここに書いてある自治体が、文京区に集結じゃないけれどみんな呼んだらいいんじゃないの。どうですかね、キャパシティ的に、伝通院でもいいですけど、それでお祭りみたいに。何か一般的なお祭りだけじゃなくて国際的なのもそうですし、アカデミーとか、ちょっと万博に近いと思いますけれどね。

【参加者C】

万博じゃんって思いました、この交流自治体のリストを見て。

【参加者E】

そうそう。いろんな総合的に大きく、開催ホストが今年は文京区ですみたいな。

【参加者C】

いいですね。

【ファシリテーター】

面白い。

持ち回りで、各姉妹都市。

【参加者E】

取りあえず文京区に集める。

【参加者C】

ポスター展示、ポスター紹介だけでもいいですよ、来づらい人たちも。

【ファシリテーター】

なんか姉妹都市感すごいでできたという感じですね。

【参加者C】

実はすでにやっていたりして、シビックセンターで。

【ファシリテーター】

それは後でピロリンに聞きましょうか。

Eさん、ありがとうございます。

では、Cさん、お願いします。

【参加者C】

私は、何か文京区ってすごいたくさんいろんなお祭りとか既にやっていると思うんですけど、交流自治体とかにアピールするときにこれだって言いにくいなというふうにも思っただけ。分かんないですけど、杉並区だったら阿波踊りみたいなものがあると思うんですけど、文京区はいろいろあり過ぎて、1個有名なのがないような、選べないくらいたくさんあるなというふうに思っております。なので、ちょっと新しく作ってもいいんじゃないかなと思って、文京音頭みたいな、文京区の新しい祭りダンスみたいなのを作って、それを例えば幼稚園とか小学生とかに踊ってもらって浸透させていって、いろんな文京区のお祭りでもそれはやるみたいな区の踊りとか歌とかを1曲作りたいなって。メドレー形式で、北は盛岡から沖縄まで要素を入れたら。

【ファシリテーター】

面白いですね。

Cさん、ありがとうございます。

ではピロリン、お願いいたします。

【区長】

もうまとめちゃうには早くはない。

【ファシリテーター】

まだ大丈夫です。

【区長】

今、すごいいいアイデアで、文京区のダンスみたいなのを作ろうという話ですよ。実は、ビーラボって中高生のサークルがあるんですけど、そこのスペシャルサポーターでTAKAHIRO君という。

【参加者C】

E X I L E。

【区長】

じゃなくて。上野隆博って行って、今でいう坂道グループの振付をやっていたり。

【参加者B】

乃木坂。

【区長】

乃木坂とか、いわゆる坂がつくアイドルたちの振付は全部、このTAKAHIRO君がやっていて。彼のダンスがすごくいいのは、ニューヨークアポロ・シアターでマイケルジャクソンですら8連覇しかできなかったダンスコンテストで9連覇したんです。マドンナのワールドツアーのバックダンサーも。

【参加者C】

なんかダンサーの番組で見たような気がするな。

【区長】

彼がもともと湯島に住んでいて、今ビーラボのスペシャルサポーターなんで、今みたいなアイデアを伝えて、それなりにお金がかかるかもしれないけどこどもと一緒に踊れるようなものを作ってくれて言ったら、もしかしたらできるかもしれない。そういうアイデアはとても大事だなと思いました。

【ファシリテーター】

すみません、もう一周して皆さんからアイデアをいただいてもいいですか。

もうちょっと、今聞いた中でさらに深めたいなというご意見。

【参加者B】

そうですね、ダンスもやっぱり、私はやっぱり高齢者のこととかそういうのにつながっちゃうんですよ、どうしても地域のこととか。そうするとダンスもやっぱりリハビリを兼ねて、何とか音頭、おじいちゃん、おばあちゃんたちも踊れるような、それも両方とも並行であったらいいんじゃないかなと。若者曲、もうちょっと年齢を経た人たちが踊れる曲で、みんなで踊れば。

【区長】

文の京介護予防体操っていうのがありますよ。

【参加者B】

どんなのですか。

【区長】

理学療法士さんが作って、CATVで定時で流している。

【参加者B】

区長さん、それは音楽があるの。

【区長】

区歌がBGMです。高齢者の介護予防体操の拠点というのはあって、地域活動センターの会議室とかそういうところで。グループでやっている人たちとか、フレイルの活動をやっている人たちはよく知っている。多分、それは高齢者向けの介護予防体操なので、それをこどもたちにとって言っても無理だから、世代で分けてやるか、昔で言うパプリカみたいな。

【参加者C】

恋するフォーチュンクッキーとか。

【区長】

盆踊りでも踊ってますもんね。

【参加者B】

だから、何か共通のものが幾つかあると、高齢者はこっちに行ってもみんなと一緒に踊れる。

【ファシリテーター】

共通言語みたいな。

【参加者B】

共通。こっちに行ってもどこの人たちとでも会えば、それ踊れるわっていうのがあると。

【ファシリテーター】

それを交流自治体を混ぜながら一曲作るみたいなね。

【参加者C】

なんか交流自治体を混ぜなくても、文京区ソングで、それを交流自治体に披露しに行くとかでもいいかもしれないですね。

【ファシリテーター】

面白いですね。書いてください、忘れないうちに。披露しに行く、交流自治体の踊りを作って文京区をPRする。Bさん、ありがとうございます。

Dさん、お願いします。

【参加者D】

今、お話があったように誰でも触れられる難易度であったりというのも大事だと思うんですけども、あえて違う角度で。

前に恋ダンスとかって流行って。

【区長】

星野源の。

【参加者D】

みんなが踊りやすいものではないと思うんですけど。むしろちょっと難しいから挑戦したくなって、ほかよりもちょっとそれこそ角が立って目立ったというところもあるのかなと思うので、あえてちょっと癖のあったりだとか、ちょっと難易度が高かったりだとか、そういうのをするのも面白いかもって、今お話し聞いて思いました。

【ファシリテーター】

なるほど、ありがとうございます。

Aさん、お願いします。

【参加者A】

私は、人材発掘が面白いんじゃないかと思いました。いろんなこと以外にも、区内に音楽家の方いっぱいいると思うんですね。まだまだ活躍されてない方が。作詞家、作曲家さん、音楽家さん、大学などもあるし。

【参加者B】

尚美ミュージックカレッジとかね。

【参加者A】

忘れておりました。そういった方々を。

【ファシリテーター】

文京区だったら何でもできちゃいそうなの。

【参加者A】

そうですね。

【ファシリテーター】

ありがとうございます。

Eさん、もう一周お願いします。

【参加者E】

そうですね。お祭りなので、さっきのダンスとかということだと、何か日本人はあまり恥ずかしがって踊らないという隠れカルチャー、でも盆踊りとかはなんか画一的なものじゃなくて本当に何でもいいよみたいな。音楽弾ける人は音楽やって、本当にその場で、みんなで一緒に盛り上がってみたいなメイン会場をつくって。あんまり思いつかないですけど、はたまた真

面目なディスカッションとか対話みたいなのは大学横断的に、その日は何だろう、いろんな会場で。

【ファシリテーター】

交流自治体の人に来てもらって。

【参加者E】

そうね、さっきの前提の上で、大学を同じ日に借りて行き来できるようにするとか。

【ファシリテーター】

区内全域で、大学いっぱいありますもんね。

なるほど。ありがとうございます。

では、Cさん、お願いします。

【参加者C】

なんですかね。盆踊りに使える曲というのを今思いました。盆踊りだと祭りで。

【ファシリテーター】

中野区だとボンジョビがすごいらしいですね。

【参加者C】

そうですね。きんに君とか、結構面白い祭りをやっているんですよ。カルチャーの街だから。

【ファシリテーター】

確かに。

【参加者C】

文京区は何の街なんだろう、それで言うと。

【参加者A】

文豪。

【参加者B】

文の京。

【区長】

アカデミック路線で行くとそういう楽しそうなものにならないですよ、なかなかね。

【参加者C】

アカデミックなのをポップに伝えたら、ギャップで。

【参加者E】

何にでもエンタメを混ぜる。

【ファシリテーター】

教育と、いろいろ混ぜてみたり。すごくすてきなアイデアもたくさん出て、Cさんありがとうございます。

それでは、そろそろまとめに入りながら、ピロリンのアイデアも織り混ぜながら、25分までお願いいたします。

【区長】

実は、集客能力の高いイベントって結構あって、この間までやっていた湯島天神の文京梅まつり、開催期間に45万人。4月の頭から約1か月ある根津神社のつつじ祭り、60万人。なので、新しくつくるといって、アイデアは出すけどじゃあ誰がやるのという話になって、言い出しっぺやれよって言っても俺一人じゃって形になって、結局そのアイデアが死んでいってしまうので。何か、今日みたいなアイデアを生かしていくには既存のところをどううまく使うのかというのがポイントかなという気はします。

その意味では、先ほど盆踊りという話が出てましたけれど、実はひそかに文京区盆踊りの数が増えていて、今幾つやっているかな、夏だけでも10か所じゃくだらないんじゃないかぐらいに、盆踊りが増えています。

それはね、実はポイントはここで、僕も含め文京区で生まれ育った五、六十代の方は実は盆踊り踊れないんですよ。一番なくなったとき、地域でそういう行事が。ところが、今入ってきて子育てをしている三、四十代の人って、パパかママ、僕は印象的に思っているのは大体パパが地方出身者で、ママが関東圏とかっていう人が文京区に引っ越してきているケースが多くて、パパが踊れるんですよ。自分たちが、要は田舎で踊ってたから盆踊りを。なので、パパがお子さんの手を引いて盆踊りに来ているって姿をよく見かけます、最近、ここ数年。なので、そういう人たちに訴求できるといいなと。さっきも、ママだけじゃなくてパパもいるというのはそういうことで、いろんなイベントにパパとこども、パパとママとこどもで参加できるようなものがあるのかなと。

あとは、実は既存の神社祭礼でも、向丘追分町会というところは、ほぼおみこしを文京学院大学の留学生が担いでいます。町の人たちは高齢化しちゃって担げなくて、お金を使って担ぎ屋集団を呼ぶのも嫌なわけですよ。そこで、留学生に頼んで。湯島の三組弥生会というところは、日本薬科大学の留学生に頼んで、ここもほぼ半分くらい留学生だからすごい。こういうところ出てきているので、あとお茶大の女子大生も跡見の女子大生も日本女子大も、地域のお祭りには学園祭の実行委員会みたいな子たちが担いで来てくれ始めているので、担ぎ屋さんをお

金出して呼ぶくらいだったら地域の大学を紹介しますということで、これは今、区で協力しながらやっています。

あと、実はいろんな交流自治体を一堂に会するというのは実は先週やっていて、都市交流フェスタというのを礫川公園とシビックセンターを使って2日間やったんですね。結構な数の人に来ていただいて、こういうのをどういうタイミングでやっていくのかというのでいろんなアイデアをまたいただけたらなど。

実は交流自治体ツアー、さっきのお祭り留学じゃないですけど、実はやったことがあってですね。文京区でさんさ踊りのワークショップをやって、盛岡のさんさ踊りのときに行きましようというのでやったら、ワークショップには子どもたちも含めて参加してくれるんだけど、盛岡までは行かないんです。

【ファシリテーター】

なんだ、私が行けばよかった。

【区長】

そんなことになってしまったのも、実はありました。

ところが、今からコロナの前ですけど、ドイツのカイザースラウテルンというところに区民ツアーをやったら、2回やったんですけど2回とも満席で。

【参加者A】

たしか私も申し込んだ。

【区長】

そういうときは集まるんですね。昨年、ソウル市の松坡区という、百済の国の発祥の地だったところに、百済祭りってお祭りがあって、そこにみんなで行こうってやったら、これは9時からネットで申込みが始まって9時20分で全席埋まったというぐらいで。

正直よく分からない。うまくいくツアーもあるし、うまくいかないツアーもある。

確かに観光で行って、そこに触れているだけじゃなくて、交流自治体ツアーでやると松坡区るときは、チャプチェとキンパを向こうの人が作り方を教えてくれて、参加者が、子どももいましたけれど、そういう体験をさせてくれたりというのもあるので、工夫はさらにできるかなと。

今年の夏に、盛岡市とうるま市と文京区の少年野球の交流戦を東京ドームを借りてやります。

【参加者C】

それはすごいですね。

【区長】

こういうのを、今後いろんなところとやっていくと面白いのかなと。これは、僕は対抗戦にしたいって言っていて、例えば今年は文京でやるけども、3年後とか5年後とかに、うるま市は阪神タイガースの2軍のキャンプ地だったりがあるのでそこでやるとか、そういうところ回せないですかという、うるまの市長は毎年東京ドームでやりたいよなって。

【ファシリテーター】

そこですね。

【区長】

でも、そういう旅費は向こうは組めるみたい。そんなようなところで相互交流をしていくと。実は、大事なポイントでお伝えをしたいのは、何でこれだけ交流都市を増やしているのかという、理由はただ一つで、文化交流も目的でないわけじゃないんですけど、災害時の協力なんですね。平時のときに連携を密にとっていけば、必ず来てくれますから。なので熊本地震のときも文京区から大量に職員を派遣したし、今でも熊本の上天草というところで水害の派遣で、今月いっぱい土木の職員が派遣されているんですね。そういう災害時に協力し合えるためにも、ふだんからの人と人との交流が大事だろうと。

【参加者C】

勉強になりました。

【区長】

皆さんのいろんなアイデアの中で、町会が残っているのも文京区のよさだと思うんですね。なので、結構新住民の人たちも参加しやすいようなきっかけづくりというものをつくる必要があるということと、パリ5区は何かやりたいですよ。

【参加者A】

やりたいですね、ぜひ。

【区長】

パリ5区ってソルボンヌがあるところでカルチュラタンがあるところなので、フランスのパリのど真ん中、僕は行ったことないですけど、有名なフレンチのお店、ニューオータニ、トゥールダルジャンもパリ5区にあるんですよ。なので、本当に全部が集まっているところなので、この交流はいずれ区民ツアーみたいなのも組まれるだろうというふうに思います。

【参加者B】

1時間以内にすぐ売り切れになるフランスのパリの焼き栗、あれがおいしいらしいんですね。

【区長】

それは5区で焼いてるのか。

【参加者B】

それを食べたいんですよね。

【区長】

実は共通点は、文京区は神田川の左岸だけど、向こうはセーヌ川の左岸だとか、ソルボンヌと東京大学とか、あとはパリ植物園と小石川植物園とか、そういういろんな共通点がある。

あと文京ガチャは面白いですね。

【参加者C】

区長の写真とか入れて。

【区長】

それを幾らでガチャを引かせるんだって。外れガチャって。

【ファシリテーター】

面白い、それ。

【区長】

さっき、ダンスでTAKAHIRO君の話をしましたけれども、実は同じビーラボのスペシャルサポーターを伊沢拓司がやっているんですよ。だから、彼にクイズを作らせるとかっていうのも面白いかなと。

【参加者D】

謎解きも流行ってますもんね。

【参加者C】

それもいいですね。東大出身だし。

【区長】

あとは、Eさんのウォータールーとは、東大が交流しているんですよ。僕も1回来てくれて言われて、ウォータールー大学が来たときに、交流会に参加しました。向こうの市とも少しやり取りしましたけれども、全然違うのは、カナダのウォータールー市とウォータールー大学の関係と、あとはそれこそシリコンバレーの辺りというのは、教育研究機関と大学と地域が、すごくドメスティックな関係であるわけですね。ウォータールーも、ウォータールー市には一番集まっているのは何っていったら大学と研究機関、それだけの町。そこで産業がくっついていっているわけですね。ところが文京区は教育と研究はあるけれど、産業は残れない町なんですよ、

今、マンションばかりになっちゃって。そこが最大の違いだなというのが結論で、今後どんな展開がまちづくりの中でもあり得るのかなということですかね。

ちょっと思いついたままですけれども、ありがとうございました。

【ファシリテーター】

ピロリンからのご意見ありがとうございました。

では、こちらに皆さんにたくさんアイデアいただきました、付箋をぺたぺた貼ってある模造紙なんですけれども、こちら区のほうに持ち帰られまして、こういうアイデアが出てたよということを共有いただくことになっております。

区民として、活力と魅力あふれる、住み続けたくなる街を今後も、こちらをきっかけに何かできたらいいなというふうに思っております。

というわけで、この会を、話が弾んでいますけれども……。

【参加者C】

くまモンも呼んでほしいな。

【区長】

実は熊本県的には、くまモンの登場を事前にオープンするのはNGだったんですね。

【参加者C】

そうなんですね、秘密なんですね。

【区長】

くまモンがいつ現れるかっていうのは、当日の朝、Xで流れるんです。そうすると、うおーってくまモン応援団が。

3月8、9日に来て、その2週間前、2月の半ば過ぎは湯島天神のお祭りに来てました。肥後細川庭園のライトアップのチラシがここにありますけど、このイベントのときに行くとかくまモンに会えたりします。いつもいるわけではないけど。それこそ、グループLINEに今日はくまモン来るらしいよって言えば。

【参加者C】

すごいんですよ、みんな投稿し過ぎて。

【区長】

そこで情報の多さに埋もれちゃうんですね、そういう情報。

【参加者C】

たまたま出会えてラッキーみたいな情報とか、今日はチャイルドアイズ社で本を配っている

ぞみたいない情報とか。

【参加者D】

そういうのって、自分が得たい、じゃなくて伝えたいというのも皆さんあるんですかね。

【参加者C】

ありますね、地域でそういうお祭りやってたりすると、今日はどどこで餅つきやってるぞみたいない。文京区ママとしてもこどもを育てる上で体験を重視していますので。

【参加者B】

高齢者も負けないで、体験を。

【区長】

町会の人たちにとっては、それが悩み事でもあって。

【参加者C】

遠征で来ちゃう人ってことですよね。

【区長】

要は、町会の活動って町会費で支えられているので、エリア外の人たちが来て、それこそイナゴの大群のように食べつくして帰るわけですよ。それが、もう限界だと言って、手伝ってくれる側に一人でも回ってくれないかなって。

あとは、お祭りって、神社のお祭りのときもここでこどもみこしとか山車が終わるとこちに次行ってというのが、今それこそグループLINEの中で情報を回して、こどもたちがはしごするわけ。お祭りの会計って、町会会計と別なんですよ。そのときに奉納をもらったところで基本的にはやっているんですよ。なので、昔は先にお菓子券が配られて、町会のこどもにはお菓子券があるからあれで、そうじゃない人たちにはお菓子がなかった。でも、かわいそうだよねという話になって、今はそれをみんなやめたんだけど、やめたらうわーってきちゃうので困ったなど。500円、1,000円でもいいから奉納してくれないかなって、町会の人たちは言ってますね。

【参加者B】

付け加えさせていただくと、根津神社さんで新入生のおはらいは氏子だけ。ほかの町会は駄目というのがあって、浅嘉町会は根津神社の氏子さんと天祖神社の氏子さんが入り混じっている町会で。それを掲示板に貼るっていうのはもうやめましょうということになったんです。根津神社の氏子さん、何で僕は行けないの、私は行けないのってなっちゃうからね。それはつらいから、そういうことも事実今もあるんですよ。

【ファシリテーター】

そういうこともね、町会に絡んでいくと見えてくるものとかがいろいろあるんでしょうね。

【参加者B】

そうしたら、今度天祖神社がそういう分け隔てなく、ランドセルで来てください、ランドセルをおはらいしますと。この町会の氏子さんは駄目というのはいないんです。そういうところをうまくバランスを取っていかないと、その町会がどういうふうに成り立っているかっていうのが分からないと、何かトラブルのもとになって、じゃあ町会に入らない、やめますと。

【参加者C】

自分の町会を大事にするのがいいですね、一人一人が。

【参加者B】

知ることですよ。うちの町会はどんな町会なのかって。

【区長】

マンションが増えてるので、実は加入率はそんなに低くないんですよ。マンションごと加入してくれてるんで。中に変わった人がいると、町会に加入する必要ないって規約改正しちゃってマンションごと町会から抜けちゃうというマンションもないではないんですけど、ほとんどのところが月200円とか300円だったらいいかっていって、だからお祭りにも参加するし、そういうときは参加するし、防災訓練とかでは最近若い人たちも参加するので来てはいるんですけど。だけど、実際に活動する人たちはサービスの受け手としては来るけど、供給側に回ってくれないというのが悩みですよ。加入率は高いんですけど、実働メンバーが少ない。

【参加者B】

今の方たちがいなくなったら、次の40代、50代の人のごそっといないので、さてどうするか。

【区長】

定年延長で、本当だったら、20年ぐらい前だったら60歳と65歳とかで会社を終えた人たちが地域に戻ってきたんだけど、今どんどん定年延長で70過ぎても地域に戻ってこないわけですよ。特に文京区で働いてる人たちなんかは会社側が手放さないから。

【ファシリテーター】

なるほど。すみません、ピロリン、お時間が。

区のほうからアンケートご記入のお願いがありますので、記入いただいたら集合写真を撮らせていただければと思いますので、ご記入のほうをお願いします。

【広報戦略課課長補佐】

では、取りあえずここで中締めということで、ダイアログカフェ、これで一応終了という形にさせていただきます。

今、ご案内ありましたがアンケート用紙を書いていただきまして、お帰りの際に結構ですの
で区職員のほうにご提出いただければと思います。

本日はご参加いただきありがとうございました。